

○桑名市子ども・子育て支援事業計画（仮称）の柱立て

桑名市子ども・子育て支援事業計画（仮称）の策定にあたって、本市における子ども・子育て支援に関する課題をもとに、計画の基本的な柱立て（基本目標）を検討します。

【計画の柱立てを検討する上で考慮すべき事項】

■新・桑名市7つのビジョン

- (1) 中央集権型から全員参加型の市政に
- (2) 納税者の視点で次の世代に責任ある財政に
- (3) 命を守ることが最優先
- (4) 子どもを3人育てられるまちに
- (5) 世界に向けて開かれたまち
- (6) 地理的優位性を活かした元気なまち
- (7) 桑名をまちごと「ブランド」に

■現在策定を進めている「桑名市総合計画」

※上位計画である「桑名市総合計画」との整合性を図る必要がある。

■桑名市次世代育成支援後期行動計画の枠組み

基本理念：みんなの支え合いでつくる

子どもと大人の笑顔が輝くまち

基本目標「1. 生まれ育つ命を守ります」

基本目標「2. 子育て家庭を支えます」

基本目標「3. 親の子育て力を高めます」

基本目標「4. 地域ぐるみの子育てを進めます」

■子ども・子育て支援法に基づく計画の記載事項

【必須記載事項】

- ・教育・保育提供区域
- ・教育・保育の量の見込み並びに提供体制確保の内容およびその実施時期
- ・地域子ども・子育て支援事業の量の見込み並びに提供体制の確保およびその実施時期
- ・子ども・子育て支援給付にかかる教育・保育の一体的提供およびその推進に関する体制の確保の内容

【任意記載事項】

- ・産後休業および育児休業後の円滑な保育利用のための方策
- ・県が行う事業との連携（児童虐待、ひとり親家庭の自立支援、障害のある子どもの支援）
- ・職業生活と家庭生活との両立に関すること等

【ニーズ調査結果から見える課題】

〈家庭の状況〉

- ・夫婦と子どもの核家族世帯が、就学前の子どもの保護者の場合は80%以上、小学生の保護者の場合は70%以上を占めています。ひとり親と子どもの核家族世帯は、就学前の子どもの保護者が2.6%であるのに対し、小学生の保護者は4.9%です。
- ・フルタイムの父親の帰宅時間は、「20時以降」が、就学前の子どもの保護者の場合は58.7%、小学生の保護者は52.4%を占めています。
- ・就学前の子どもの保護者の場合、パート・アルバイト等で働いている母親の30%以上は、フルタイムでの就労を希望しています。



- 核家族化の進展や、ひとり親家庭の増加により、子育て支援の充実や地域ぐるみの子育てが求められている。
- 子育てをはじめ家庭生活と仕事の調和を図る必要がある。
- 就労を希望する母親が働きながら安心して子育てできる環境を整える必要がある。

〈教育・保育事業の状況－就学前の子どもの保護者〉

- ・平日の教育・保育事業を利用している理由は、「子どもの教育や発達のため」(62.9%)と「現在就労している」(54.5%)が高くなっています。
- ・平日の教育・保育事業を選ぶ際に重視することは、「通いやすい場所にあること」が最も高くなっています。
- ・平日の教育・保育事業に期待することは、「マナーやルールの教育」が最も高くなっています。
- ・平日の教育・保育事業で、小学校入学までに身に付けてほしいことは、「友だちと仲良く協力し合うこと」が最も高くなっています。



- いわゆる保育ニーズとともに幼児期における教育への期待が高まっている。
- 利用者の利便性を考慮した施設の配置が望まれている。
- 就学前に子どもの社会性や協調性を養うことが望まれている。

〈放課後児童クラブの状況－小学生の保護者〉

- ・放課後児童クラブの利用率は、小学生全体では9.7%ですが、3年生以下では13.5%です。
- ・放課後児童クラブを現在利用していない人の利用意向は、小学生全体では9.5%ですが、3年生以下では13.5%です。



○子どもが安心して過ごせる居場所や遊びが求められている。

〈仕事と子育ての両立〉

- ・就学前の子どもの保護者の出産前後の母親の就労状況を見ると、「仕事をやめた」と「出産1年前からすでに働いていなかった」が約70%を占めていますが、「継続的に働いていた（転職も含む）」も30%近くあります。仕事を続けた理由としては、「職場環境や労働条件等が整っており、働き続けやすい環境だったから」と「仕事を続けることが経済的に必要だったから」が高くなっています。
- ・仕事と子育ての両立が難しいと感じたことが「ある」人は70%以上を占めています。
- ・育児休業の利用状況をみると、「母親が利用した」は、就学前の子どもの保護者では23.2%、小学生保護者が15.5%ですが、「父親が利用した」は、両者ともわずか1.3%です。
- ・子どもが病気やケガで教育・保育事業を利用できなかった時の対処法としては、「母親が休んだ」が63.5%と最も高くなっています。



○経済的な安定や、女性の自己実現のために、子育てしながら安心して働ける職場環境を整える必要がある。

○仕事と子育ての両立支援とともに、男女が協力して子育てできる環境整備が望まれている。

○安心して子育てと仕事ができるよう、小児医療や病児・病後児保育の充実が望まれている。

〈相談・情報提供〉

- ・あるといいと思われる相談窓口は、「子どもの年齢（発達段階）によって専門的な相談ができる窓口」が最も高くなっています。
- ・市の子育てに関する情報提供についてどのようにしたら必要な人に届くと思うかについては、「市の広報を充実させる」「パンフレットや情報誌をスーパーなど身近な場所に置く」「くわな子育てガイドブックを充実させる」「市のホームページを充実させる」などが高くなっています。



- 安心して子育てを行うために、相談窓口の充実が望まれている。
- 子育てに関する積極的で多角的な情報提供が求められている。

〈子育て全般〉

- ・子育てで感じていることとして「子どもがいると生活が楽しく豊かになる」「子育てを通じて自分も成長すると思う」「子どもは心のやすらぎや生きがいを与えてくれると思う」について「そう思う」が70%を超えており、子どもの存在が自分の人生や生活に対してプラスに働いていると感じている人が多いことがわかります。
- ・子育てについて特に不安に思っていることや悩んでいることとして、就学前の子どもの保護者では「子どもの叱り方について不安があること」、小学生保護者では「子ども同士の友だちづき合い（いじめ等を含む）に関すること」が最も高くなっています。
- ・子どもの育ちにとって、何歳までは、保育園・幼稚園を利用せず、家庭で育てるのが良いと思うかについては、「2歳」が45.3%を占めています。
- ・子どもを育てる環境として重要だと思うこととしては「治安がよく安全に生活できるまち」と「自由にのびのび遊べる場所」が高くなっています。
- ・子育てに関して地域に望むこととしては「子どもが事故や事件に巻き込まれないよう見守ってくれること」「子どもを注意したりしかってくれること」が高くなっています。



- 子育てに関する親の自己肯定感を後押しするような施策が望まれている。
- 子育て中の親を孤立させないよう、交流の場や相談の場を充実する必要がある。
- 地域における子どもの見守り体制を充実させる必要がある。
- 子育て家庭の地域に対する期待は大きい。

【第4回会議においてまとめられた課題】

<1グループ>

○特別な支援を必要とする子ども

- ・発達障害などで支援を必要とする子どもの通う場所・対応（療育センターの拡充等）

○子育て支援

- ・地域子育て支援センターにおける親が交流しやすいしくみづくり（親をつなげる工夫）
- ・情報提供の充実（インターネット、メルマガ、SNS等の活用）
- ・親に対する子育て講座、自己肯定感を高めるワークショップ

○親の就労

- ・働きたくても働けない親が多い。3歳からは教育・保育施設を利用したい（教育・保育施設の充実）

<2グループ>

○放課後児童クラブ

- ・放課後児童クラブのハードとソフトの両面における充実を
- ・学校－地域－親のつながりが重要

○病児・病後児保育

- ・病児・病後児保育が気軽に利用できる体制
- ・本当は子どもが病気の際は仕事を休める環境づくりが必要

○仕事と子育ての両立

- ・子育てをしながら自己実現できるよう女性の自主的な活動を支援する
- ・子どもとともに仕事や社会活動できる場を
- ・経済的な支援を充実して保育ニーズを抑制すべき

○ひとり親家庭

- ・ひとり親家庭のニーズを明確にすべき

<3グループ>

○優先順位

- ・限られた予算の中で取り組まなければならないので、何が大切かの優先順位を付ける必要がある

○特別な支援を必要とする子ども

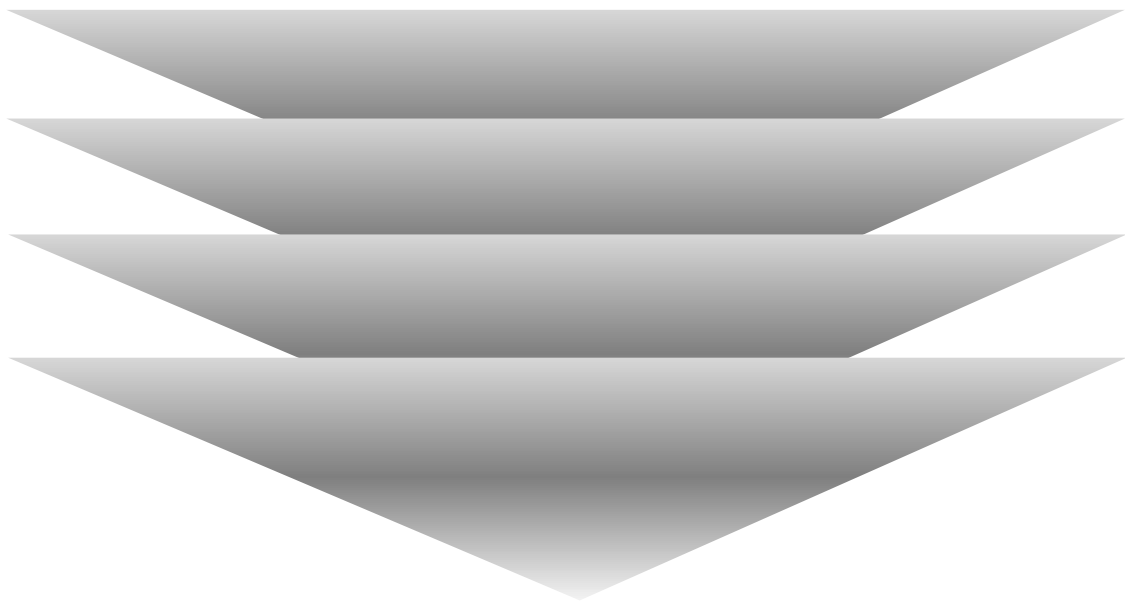
- ・発達障害のある子どもに対する支援に関し、関係機関の連携が必要

○親の子育て力を高める

- ・親としての自己肯定感を高めるような取組が必要

○仕事と家庭の両立

- ・仕事か家庭かではなく、ワークライフバランスがとれた社会を



これからの計画策定に向けて、本市の子ども・子育て支援のめざすべき姿（基本理念）と、課題解決を図るための柱立て（基本目標）を設定していきます。

今後、この枠組みに沿って、ニーズ調査の詳細な分析やヒアリング・ワークショップから導き出される個々の問題点をもとに具体的な施策を考えていきます。

本会議では、この柱立て（基本目標）ごとに分科会を設置して、詳細な検討を行っていきたいと考えます。

桑名市子ども・子育て支援事業計画（仮称）の枠組み

基本理念

計画の柱立て（基本目標）

・
・
・
・

課題から考えられる施策の方向性【例示】 ※P. 2～P. 6からのまとめ

- 核家族化の進展や、ひとり親家庭の増加等の要因より、子育て支援の充実や地域ぐるみの子育ての推進
- 仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）の推進
- 就労を希望する母親が働きながら安心して子育てできる環境の整備
- 幼児期における教育・保育の充実
- 施設・事業の利用者の利便性向上
- 就学前の子どもの社会性や協調性の醸成
- 子どもが安心して過ごせる居場所や遊び場の確保
- 男女が協力して子育てできる環境の整備
- 小児医療や病児・病後児保育の充実
- 子育てに関する積極的で多角的な情報提供、親の安心につながる相談窓口の充実
- 子育てに関する親の自己肯定感を後押しするような施策（子育て講座等）の充実
- 子育て中の親を孤立させないよう、親同士の交流の場や相談の場の充実
- 地域における子どもの安全の確保や見守り体制の充実
- 特別な支援を必要とする子どもに対する支援の充実、関係機関との連携
- 放課後児童クラブのハードとソフトの両面における充実
- 学校－地域－親とのつながり
- 子育てをしながら自己実現できるよう女性の自主的な活動の支援
- 限られた予算で取り組む中で、優先順位をつける必要性

施策の方向性についての確認と計画の柱立て（基本目標）の検討について、グループワークを通じて行います。